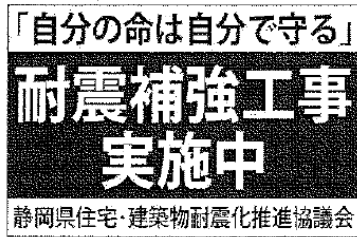


木造住宅の耐震補強PRの実施報告

1 耐震補強PR看板の設置（必須条件）



（設置期間 令和〇年〇月〇日～ 令和〇年〇月〇日）

2 耐震補強工事のきっかけ及び写真（選択条件）

(1) きっかけ ※200字以上

きっかけは、平成28年4月に発生した熊本地震で多くの住宅が倒れている映像をテレビで見、自宅の耐震補強の必要性を感じたためです。

まず、市の無料の耐震診断の申込みを行い、耐震診断を受診しました。診断の結果、大きな地震がきた場合、倒壊の可能性が高いことが分かりました。また、建築士の方から、耐震診断結果の報告書と併せて、補強設計（補強計画）や耐震補強工事に対する市の補助制度の説明があったため、家族で相談し耐震補強工事を行うことを決めました。

(2) 耐震補強後の住宅の写真



補強場所： **〇〇〇〇**

筋かいの新設

筋かいによる耐力壁をつくりました。

筋かいを意図的に露出して、採光、通風に配慮しました。

※ 仕上材等により、耐震補強後の写真だけでは補強状況が確認できない場合は、同一箇所における施工中と補強後の写真を提出してください。

上記の内容を静岡県や浜松市が耐震補強PRのためホームページや冊子に掲載することに同意します。

[申請者]

住所 **浜松市中区元城町〇〇-〇〇**

氏名 **浜松太郎**

（署名または記名押印をしてください。）

きっかけ（文例②）

今まで地震が起きるたびに自宅が大きく揺れて不安でした。

広報はままつで、わが家の耐震診断（無料）のことで知り、診断してもらったところ、上部構造評点が0.3（倒壊の危険性大）との診断結果が出て「あ～、やっぱり！」と改めて地震に弱い住宅であることが分かり、耐震工事する決断をしました。

補強計画と補強工事それぞれの補助を利用することで、費用面でも自己負担が軽減されるのが魅力でもありました。

きっかけ（文例③）

続き間を仕切る4本引き建具の一部を壁に変更しようかと検討しているとき、併せて耐震性の基準も満たしたいと思い、市役所に相談したところ、専門家による無料耐震診断を受けられることが分かり、早速申し込みました。

結果は「地震時に倒壊の危険性がある」でした。

補強計画補助の交付決定を受けた後、契約した設計事務所の耐震補強相談士と工事の設計を進める中、変更予定だった建具の部分に柱と筋違いを施して構造用合板を張れば、耐震性能が満たされることが分かり、その設計のもと、補助を利用して耐震補強工事も行うことにしました。